

活動テーマ

「ご当地カクテル」の開発を通じた、
秩父地域および特産品の知名度向上プロジェクト

秩父市中山間・皆野町全域地区 大妻女子大学

1 活動目的

文化的に完結性の高い秩父地域全体を対象とし、秩父地域全域の「ご当地カクテル」（地域の特産物を使用し、地域の観光スポットや地域の象徴を表現する）を開発することで、秩父地域の総合的なイメージをアピールする。

2 活動地域の現状

埼玉県観光イメージが弱いことも手伝って、秩父に地域の観光地としてのイメージも弱い状態にある。また秩父地域での作付面積の大きい「あまりん」の知名度もまだ低い状態である。

3 活動内容

ゼミ生全員で秩父5市町を巡り、観光の魅力を知るとともに、特産品を生産する農家を訪ね、特産物の特徴や生産の裏話をヒアリングした。

4 成果

これに基づき、全7種類の「ちちぶカクテル」を開発した。

その上で、農家他の関係者への試飲会、秩父5市町の市長・町長および観光振興関係職員らへの試飲会を経て、開発内容を修正、向上した。

最後に、県の要請により、「埼玉いちご祭」に出店し、あまりんジャムを使用した「羊山の小恋花」を乾杯酒とし、3種の「ちちぶカクテル」を販売することで、秩父の観光PRの実践を行った。

5 課題

当初想定された課題は、開発したカクテルの実売、提供の場の確保であったが、「埼玉いちご祭」でそれが確保でき、また秩父市の夜バルにて複数の店舗が「ちちぶカクテル」を販売することになり、またそれらが定番メニューとして定着する可能性も出てきたため、その点は解決したと判断している。

製品については、秩父おっきりこみを表現した「ちゅっ！きりこみ」の完成度が相対的に低いため、このブラッシュアップが課題であるほか、1月28日の試飲会で「両神の遣い」について小鹿野町長から、「黄金カボス」が弱いのもっとインパクトのあるものにしてほしいとの要望があったことへ応えることも課題である。

6 次年度以降の計画

「ご当地カクテル」の手法を引き続き埼玉県内の別の地域について適用することを考えているが、具体的な計画を立てるには至っていない。